



令和5年度に新規で入省した7人の職員に、
入省時の感想や皆さんへのメッセージを聞いてみました。

- Q1** 官庁訪問とはどのようなものですか。
- Q2** 入省して感じたことは?
- Q3** 学生時代に学んだことが仕事に活かされていますか。

- Q4** どんな業務を行っていますか。
- Q5** このパンフレットをご覧になっている皆さんへのメッセージ



保険局調査課数理第一係

大藏 侑生

Q2

A. 思っていたよりも遙かに働きやすい環境であると感じました。もちろん大変なときもありますが、休暇の取得には融通が利きますし、テレワークも実施しやすい環境です。また、周りの先輩方や同期も優しく、今のところは仕事が苦痛だと感じたことはありません。

Q5

A. アルバイトで関わっていたロボットを利用した方からお手紙をいただいたことで、自分の経験や知識を使って人のためになることをしたいと考えたため入省しました。
理系で厚生労働省に入省する方は優しい方が多く、どんな質問をしてもいつも丁寧に教えていただけます。やりがいと働きやすさの両方がある職場だと思うので、興味があれば説明会や官庁訪問に来てみてください。



政策統括官付参事官(企画調整担当)付
審査解析室総合解析係

上平 駿

Q4

A. 厚生労働省が所管する統計について、調査対象の抽出、集計結果の誤差計算、数学的視点からの助言等を行っています。難しい理論に基づいて何かやることはあまりないですが、その代わりに、常に正しい結果を出すことを期待されています。

Q5

A. マクロな見方が得意で、出身地は少子高齢化に苛まれ、大学で学んだ数学を活かしたい。そんな背景から、厚生労働省の数理・デジタル職を志望するに至りました。官庁訪問を通じて、この背景に沿った仕事ができると思ったことが就職した理由です。みなさんも是非、どこの官庁訪問に行っても、自身の志望動機に沿った仕事ができるのか確かめてみてください。



政策統括官付参事官(企画調整担当)付
審査解析室産業連関表係

菅野 晴瑠

Q3

A. 私は数学科出身で、学生の知識が直接活かされることはないですが、数学的な考え方は必要とされ、活かすことができています。

Q5

A. 私が厚生労働省を志望した理由は、人々の暮らしを守る仕事がしたいということと、数理職という数学的素養が活かせる採用区分があることを知ったことがきっかけです。
現在は政策統括官(統計、情報システム管理、労使関係担当)の審査解析室で産業連関表の作成をしています。実際に働いてみて、想像していた以上にテレワークがしやすく、ワークライフバランスがとりやすいと感じました。



年金局事業企画課
調査室統計調査係

近藤 尚紀

Q1

A 15人以上の職員とお話しする機会をいただき、職員ごとに話題や雰囲気がかなり違ったことが印象的でしたので、一概にどのようなものかを答えるのは難しいですが、私が就職活動で経験した面接の中では1番素直に臨むことができました。

Q5

A 数理やデジタル系の素養を活かして国民の安心な生活に貢献したいという思いはありますし、正直なところ厚生労働省を志望したのは直感によるところが大きかったです。とはいっても、現在の仕事は多くのことが学べてやりがいを感じているので、入省してよかったです。こうした経緯がありますので、厚生労働行政に強い関心がなかったとしても、この仕事に少しでも興味をもって説明会等に足を運んでくださると嬉しいです。

政策統括官付参事官(企画調整担当)付
雇用・賃金福祉統計室毎勤第三係

菅谷 嶺

Q3

A 私は大学院で地球科学を専攻していました。ですから研究していた内容が直接活かされることはほぼないだろうと思っています。しかし、担当業務のことを日々学びながら従事していく環境は整っているように思うので、これまでに培ってきた探求心と理系的素養があればどんなバックグラウンドの方でもやっていけると思います。

Q5

A 私は博士課程まで進む中で、誰もが好きなことや興味のあることを学んだり挑戦したりできる社会にしたいと考えるようになりました。入省のきっかけは、官庁訪問直前にあった省庁合同説明会で、なんとなく入った厚生労働省のブースでとっさに自分の試験区分が最も大きく書かれているところを間違えて指さしてしまった事でした。実現したい事とそこに向かい得る手段と自身の経験がマッチするなど感じたのでそのまま入省を決めました。これを読んでいる皆さんにも悔いのない職業選択をしてほしいので、決め打ちせず是非色々な所で話を聞いてみてください。

年金局数理課数理第一係

杉本 勇大

Q1

A 官庁訪問は、面接をするというだけではなく、対話のような雰囲気で、様々な部局に所属する数理職員の方と一緒に一つ一つお話を聞くことができます。業務説明を通じて、数理・デジタル職の業務内容の理解を深めるとともに、職場や人の雰囲気を知ることもできるので、少しでも興味がある方には、ぜひご参加いただき、その魅力を感じていただきたいです。

Q5

A 今まで学んできた数理的素養を生かして、誰かのためになる社会貢献性の高い仕事をしたいと思い、厚生労働省の数理・デジタル職を選びました。現在は「財政検証」、「老齢年金受給者実態調査」に関する業務に携わりながら、年金制度について勉強しています。私は大学時代、物理専攻だったうえに、厚生労働省の施策分野にも詳しくはありませんでしたが、官庁訪問で職員の方のお話を聞く中で志望度・魅力が増していったので、少しでも興味がある方には、説明会や官庁訪問にぜひご参加いただき、その魅力を感じていただきたいです。

労働基準局労災管理課
労災保険財政数理室料率係

山本 圭佑

Q2

A アルバイト経験が乏しく仕事をすることに不安を感じましたが、年の近い数理職の先輩にエクセルの基本的な使い方からメールのマナーまでしっかり指導していただき、安心して職場に溶け込めるようになりました。また有給休暇をとりやすい環境なのもいいなと思いました。

Q5

A 地元が少子高齢化により活気が薄れていく不安を感じていました。そんななか数理・デジタル職の説明会で、大学時代に培った統計学と論理的思考力が全国で起きるこの問題の解決に貢献できることを知り興味を持ちました。1年目は労災保険の部署に配属され、約6000万人の働く人に影響する制度を維持していく責任感とともに、複雑な保険料率の計算方法を理解したときの(数学の問題を解いたときと同じような)達成感を感じています。